



プログラミングに挑戦する子どもたち。6日、鯖江市の里会館

小中生100人、1泊2日フェス

子どもたちが楽しみながらプログラミングを学ぶ「小中学生プログラミング・フェス2018」(福井新聞社主催、PCN、鯖江市共催)が6日、同市河和田地区で始まった。県内外から

鯖江・河和田

小学4年〜中学3年の約100人が参加。1泊2日の日程で河和田の豊かな自然や伝統工芸に触れながら、プログラミングの仕組みや楽しさに理解を深めている。(前田 暉)

自然、伝統工芸も体験

2020年度から小学校で必修化されるプログラミング教育に関心をもち、子どもたちにプログラミングの楽しさを伝える活動している。3回目の今年も「ITのまち」を掲げる同市が自治体として初めて運営に参加。福井コンピュータホールディングス、ほくほくIT証券が協賛し、2日間に拡大した。

初日は市庁舎の里会館で実習があり、講師は子どもたちにプログラミングの楽しさを伝える活動に取り組み。プログラミング・クラブ・ネットワーク(PCN)の松田優一代表(41)らが務めた。子どもたちはPCNの福

野泰介さん(39)が開発に携わったプログラミング

ト内でLED電球を点滅させる文字列を入力し、明かりがともると「できた、やった」と笑顔を浮かべていた。障害物を避けるゲームのプログラムにも取り組んだ。

初めて体験したという平田哲君(福井市円山小6年)は「難しそうないメージだったけど、やっていくうちに楽しくなってきた。これからもやってみたい」と話していた。実習後は越前漆器の絵付けにも挑戦し、約1500年の歴史を刻む伝統の技に親しんだ。宿泊場所のラポーゼかわだではバーベキューを楽しんだ。7日は周辺を散策し自然に親しむほか、応用的な実習として1人乗りの電動カーが壁にぶつからないようにプログラミングする。